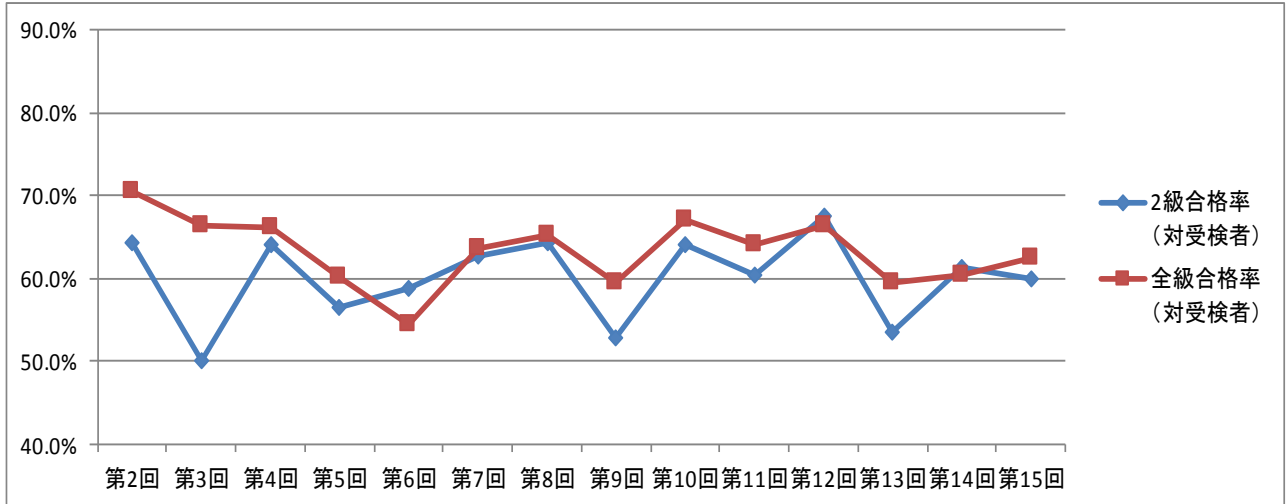


【3】2級の合格結果・出題ポイント・弱点

◆2級の合格結果

●2級の合格率 <未認定者含む、第1回は1級と2級未実施>

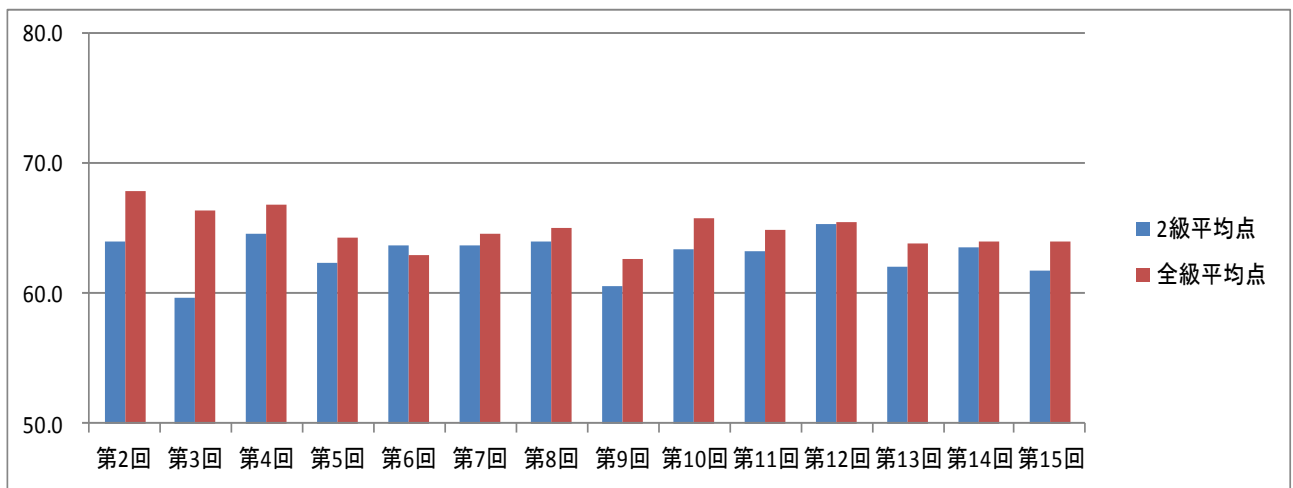
※ 第14回に比べ、1.3ポイントダウン



2級	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
申込者数	84	168	322	220	384	275	415	316	474	342	526	294	574	345
受検者数	84	164	317	214	382	260	398	307	453	329	506	278	540	330
合格者数	54	82	203	121	225	163	256	162	290	199	342	149	331	198
合格率 (対受検者)	64.3%	50.0%	64.0%	56.5%	58.9%	62.7%	64.3%	52.8%	64.0%	60.5%	67.6%	53.6%	61.3%	60.0%

●2級の平均点 <第1回は1級と2級未実施>

※ 第14回に比べ、1.7点ダウン



	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回
2級平均点	64.0	59.7	64.5	62.3	63.7	63.6	64.0	60.6	63.3	63.2	65.3	62.0	63.5	61.8
全級平均点	67.9	66.3	66.8	64.2	63.0	64.5	65.0	62.6	65.7	64.9	65.4	63.8	63.9	63.9

◆2級の出題ポイント <今回出題、前回出題の◎は計算問題あり>

単位	章	節	ページ	分野	今回出題	前回出題	出題数	配点
第1単位	1	第一線監督者の役割・機能と能力		役割			今回 10 前回 12 今回 12 前回 11 今回 11 前回 10 今回 10 前回 10 今回 7 前回 7	今回 15 前回 19 今回 32 前回 32 今回 22 前回 22 今回 22 前回 18 今回 9 前回 9
	1.1	第一線監督者の役割と機能	2-4		○			
	2	企業と第一線監督者		役割				
	2.1	企業発展の歴史	10-13		○	○		
	2.2	企業活動とは	14-18			○		
	3	生産性向上と現場運営		役割				
	3.1	生産性向上の意義	26-29		○	○		
	3.2	第一線監督者と科学的管理	30-32		○			
	3.3	現場運営の配慮点	33-35		○			
	3.4	現場管理の課題	36-38		○	○		
	4	第一線監督者の職務		役割				
	4.1	第一線監督者と管理活動	42-47			○		
	4.2	作業指導の進め方	48-51		○	○		
4.3	職場のなかの人間関係	52-54		○	○			
5	第一線監督者の1日		役割					
5.1	第一線監督者の仕事	58-60			○			
5.2	第一線監督者の行動サイクル	61-64		○	○			
5.3	第一線監督者のコミュニケーション	65-69		○	○			
第2単位	1	原価の成り立ち		コスト			今回 12 前回 11 今回 11 前回 10 今回 10 前回 10 今回 7 前回 7	今回 32 前回 32 今回 22 前回 22 今回 22 前回 18 今回 9 前回 9
	1.3	標準原価管理	10-16		◎	◎		
	1.4	コストダウン活動	17-21			○		
	2	コストダウンのポイント		コスト				
	2.1	生産性向上とコストダウン	26-31			○		
	2.2	メソッド面のロス	32-37		◎	◎		
	3	改善マネジメントの進め方～労働生産性向上～		コスト				
	3.4	労働生産性向上～パフォーマンス改善～	80-87		○			
	3.5	パフォーマンスの標準	88-93		◎	◎		
	3.6	パフォーマンスの管理	94-103		◎	◎		
4	改善マネジメントの進め方～設備生産性向上～		コスト					
4.1	設備生産性向上とは	108-110		◎	◎			
第3単位	1	品質管理の概要		品質			今回 11 前回 10 今回 10 前回 10 今回 7 前回 7	今回 22 前回 22 今回 22 前回 18 今回 9 前回 9
	1.1	製品と品質	2-5			○		
	1.2	品質向上のためのいろいろな活動	6-10		○			
	1.3	品質の「管理」活動	11-16		○			
	2	品質のための製造工程の管理		品質				
	2.1	生産の4要素と品質	20-23			○		
	2.2	製造工程における品質管理	24-28		◎	◎		
	2.3	第一線監督者による現場管理	29-35		○	○		
	3	工程における品質の改善と不良の低減		品質				
	3.1	品質改善の進め方	40-48		○	○		
3.4	品質管理の手法	59-67		○	○			
4	品質と諸活動		品質					
4.1	品質と原価	72-78		○	○			
4.3	小集団活動による不良低減	83-85		○				
第4単位	1	生産管理の概要		納期・生産管理			今回 10 前回 10 今回 7 前回 7	今回 22 前回 18 今回 9 前回 9
	1.1	生産管理とは	2-8			○		
	1.2	生産形態と生産管理システム	9-13		○	○		
	2	生産管理の基本機能と管理のポイント		納期・生産管理				
	2.1	販売計画・受注管理	22-26		◎	◎		
	2.2	在庫計画	27-38		◎	◎		
	2.3	生産計画	39-48		○	○		
	2.4	資材・外注管理	49-55			○		
	3	生産管理の改革		納期・生産管理				
	3.1	求められている課題	60-61		○	○		
	3.2	業務プロセス別の改善手法	62-65		○	○		
	3.3	生産管理における情報システムの活用	66-72		○	○		
	4	職場の安全衛生環境づくり		安全・環境				
4.1	事故・災害の未然防止	76-79		○	○			
4.2	リスクアセスメントの実践	80-84		○				
4.3	ヒューマンエラーの対策	85-89		○	○			
5	環境管理の概要		安全・環境					
5.1	環境管理の概要	94-95		○	○			
5.2	環境管理とは	96-102		○	○			
5.3	環境管理システム	103-104			○			
計							50	100

2級は現場の様々な問題や課題を解決する力量が求められており、ミドル層ともいえる第一線監督者が主な受検対象者です。すなわち、2級受検の皆さんは、現場監督と部下指導という現場の経営者の役割を担います。そのため、「役割」では『第一線監督者の役割と機能』や『生産性向上の基本』『第一線監督者と科学的管理』『作業指導の手順』『行動科学での衛生要因』『第一線監督者のコミュニケーション』などが出題されています。

「役割」以外の4分野においても、第一線監督者必須の項目から出題されています。いずれも、皆さんが日常的に考え行動している内容や知識ばかりです。特に、改善・改革を推進し、新しい課題に挑戦するために、これらを十分に理解し活用する習慣を身につけていただきたいと思います。

● 「品質」の主な出題

『PDCA サイクル』『工程能力指数 (Cp 値)』『作業標準書』『品質管理の手法』『失敗コスト』『小集団活動による不良低減』

● 「コスト」の主な出題

『労務費の賃率差異』『M-M チャート』『編成効率、バランスロス』『パフォーマンスロス』『作業能率、工数稼働率、総合能率』『設備総合効率』

● 「納期・生産管理」の主な出題

『生産形態の種類』『加重移動平均法』『在庫の区分』『ABC 分析』『定期発注方式』『ネットワーク手法、クリティカルパス』『MRP システム』

● 「安全・環境」の主な出題

『リスクアセスメント』『ヒューマンエラーの再発防止策』『環境法規制管理』『環境側面の洗い出し』『環境管理体制』

◆2級の分野別得点率と弱点項目

第15回の2級は1級と同じく、「品質」と「コスト」の得点率が第14回よりも上がったのですが、「役割」「納期・生産管理」「安全・環境」の得点率が下がりました。そのため、残念ながら第14回に比べて1.3ポイント(61.3%→60.0%)、合格率が落ちています。以下に、弱点項目についての詳細を述べますので、今回の復習として、また次回受検するうえで、参考にしてください。

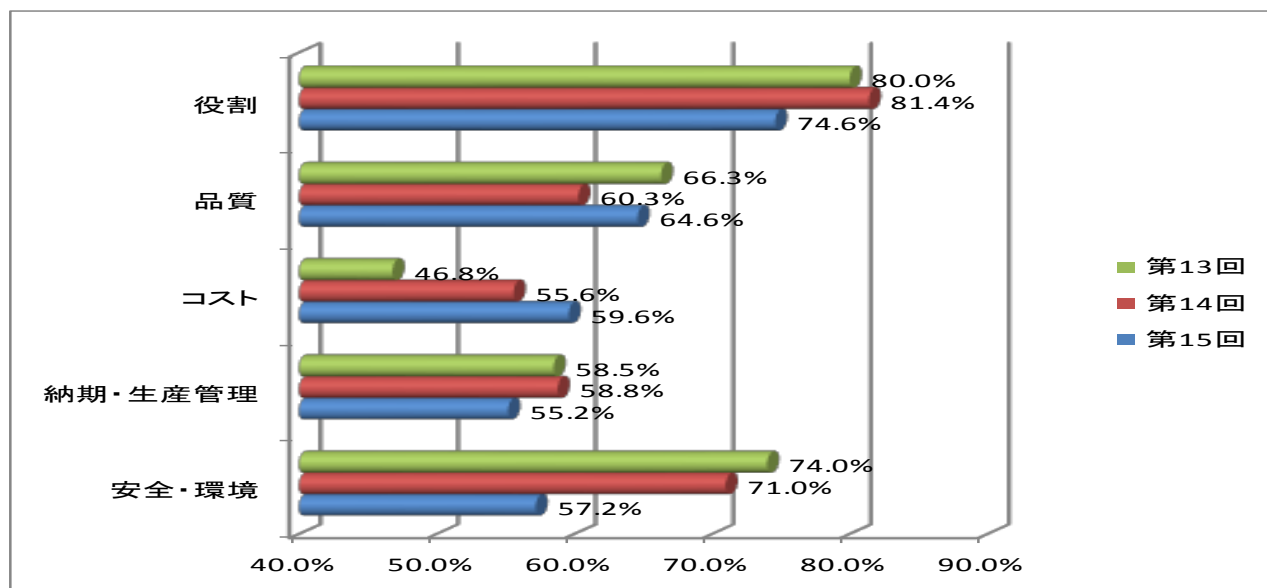
まず、「役割」は『行動科学での衛生要因：第1単位 P54』が弱点項目です。第一線監督者は部下のやる気を引き出すことが重要です。仕事を通じて成長していることを認識させなければなりません。

「役割」以外の4分野を見てみると、「品質」は『品質管理の手法：第3単位 P59-67』のうち特性要因図は理解されていますが、管理図については理解不足です。また、『小集団活動による不良低減：第3単位 P83-85』も弱点項目です。「コスト」は『作業能率、工数稼働率、総合能率の計算：第2単位 P96-97』の正答率は80%以上と高く、多くの方が理解されていますが、『M-M チャートの計算：第2単位 P36』『設備総合効率の計算：第2単位 P110』は、芳しくありません。「納期・生産管理」は『生産形態の種類：第4単位 P9-10』『加重移動平均法の計算：第4単位 P25』『定期発注方式の計算：第4単位 P35』『ネットワーク手法、クリティカルパス：第4単位 P45』が弱点項目です。「安全・環境」は安全分野の『リスクアセスメント：第4単位 P77』『ヒューマンエラーの再発防止策：第4単位

『P87-89』の正答率は約90%と高く、ほとんどの方が理解されていますが、環境分野の『環境法規制管理：第4単位 P97-98』『環境側面の洗い出し：第4単位 P98』『環境管理体制：第4単位 P100-101』の正答率は低く、特に『環境管理体制：第4単位 P100-101』の正答率は30%にも達していません。安全分野に比べ、環境分野に対する理解不足がうかがえます。

また、特筆すべき事項として挙げられることは、例年弱点項目になっている『設備総合効率の計算：第2単位 P110』が第15回においても正答率が低かったことです。設備総合効率（設備生産性向上）は、人と設備が密接に連携して動く現場において、生産性を向上させるための不可欠な要素です。『設備総合効率の計算：第2単位 P110』は、「設備が稼動する時間内で、付加価値を生む時間の比率を高め、現場全体の生産性向上に寄与する」という2級受検者の皆さんの大きな役割に直結しますので、テキストを繰り返し熟読して、皆さんの職場においても算出し、完全に理解してください。

●分野別得点率



●分野別弱点項目

分野	弱点項目
■役割	・行動科学での衛生要因
■品質	・品質管理の手法(管理図) ・小集団活動による不良低減
■コスト	・M-Mチャートの計算 ・設備総合効率(設備生産性向上)の計算 設備総合効率=時間稼働率×性能稼働率×良品率である ここで、時間稼働率=(負荷時間-停止時間)÷負荷時間 性能稼働率=速度稼働率×正味稼働率 速度稼働率=基準サイクルタイム÷実際サイクルタイム 正味稼働率=(出来高×実際サイクルタイム)÷(負荷時間-停止時間) を代入して、設備総合効率を求める公式を整理すると 設備総合効率=基準サイクルタイム×出来高×良品率÷負荷時間となる ※たとえば、基準サイクルタイムは(設備総合効率×負荷時間)÷(出来高×良品率)である ※また、実際サイクルタイム=(負荷時間-停止時間)÷出来高である
■納期・生産管理	・生産形態の種類 ・加重移動平均法の計算、定期発注方式の計算、ネットワーク手法、クリティカルパス
■安全・環境	・環境法規制管理、環境側面の洗い出し、環境管理体制